



2026年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年1月14日

上場会社名 株式会社グッドパッチ 上場取引所 東
コード番号 7351 URL <https://goodpatch.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 土屋 尚史
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 坂口 友紀 (TEL) 03(6416)9238
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け、個人投資家向け)
(百万円未満切捨て)

1. 2026年8月期第1四半期の連結業績(2025年9月1日～2025年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年8月期第1四半期	1,206	△0.6	77	△39.9	107	△18.6	60	△31.5
2025年8月期第1四半期	1,214	18.5	128	—	131	—	89	—

(注) 包括利益 2026年8月期第1四半期 91百万円(2.3%) 2025年8月期第1四半期 89百万円(—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年8月期第1四半期	6.98	6.95
2025年8月期第1四半期	9.91	9.88

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年8月期第1四半期	4,891	4,150	84.3
2025年8月期	5,245	4,145	78.6

(参考) 自己資本 2026年8月期第1四半期 4,125百万円 2025年8月期 4,121百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
	2025年8月期	—	0.00	—	10.00
	2026年8月期	—	—	—	—
2026年8月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年8月期の連結業績予想(2025年9月1日～2026年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	5,600	10.1	560	0.5	632	3.1	409	0.5
								46.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 1社(社名) 株式会社Layermate 、 除外 1社(社名) -

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年8月期1Q	9,246,620株	2025年8月期	9,246,620株
② 期末自己株式数	2026年8月期1Q	512,842株	2025年8月期	512,827株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2026年8月期1Q	8,733,789株	2025年8月期1Q	8,980,111株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料のP. 5「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	9
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等の注記)	11
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	12
(重要な後発事象の注記)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調が見られる一方で、米国の政策動向や金融資本市場の変動、物価上昇、個人消費の低迷等の影響により、国内外の経済見通しは依然として不透明な状況が続くと考えられます。

また、デジタルトランスフォーメーション(DX)(注1)やAI(人工知能)の進展により、社会や産業構造は大きな変革期を迎えています。AI市場は今後も持続的な成長が見込まれ、生成AIは単なる「コンテンツ生成ツール」を超え、社会インフラを支える「基盤技術」へと進化しています。マーケティングやデザイン生成、人手不足対応等、生産性向上のあらゆる領域で活用が広がり、実験段階から社会実装フェーズへと移行しております。

こうした環境下、日本企業では、持続的な成長の実現に向けて、先行投資や経営戦略への注力が一層進んでいます。特に、DXやAIの活用による事業革新・業務効率化、新たな企業価値の創出に向けた取り組みが加速しており、加えて、社会課題への対応やステークホルダーとの関係強化を目的に、企業の存在意義やミッションの再構築を行う動きも増加しています。当社グループは、顧客企業の変革を支援すべく、「デザイン×AI」の取り組みを一層加速させています。強みであるUI/UX(注2)を起点に事業領域の拡大を進めるとともに、「AI Driven Design Company」として、AIを活用したサービスの高度化とAI領域への戦略的投資を推進し、日本のデザイン業界におけるリーディングカンパニーとしての地位を確立しつつ、次なる成長フェーズへと歩みを進めてまいります。

主要事業であるデザインパートナー事業においては、当社の強みである戦略デザインやUI/UXデザインと、連結子会社である株式会社スタジオディテイルズの強みである質の高いクリエイティブとブランディングを融合し、顧客企業のさらなる期待に応えられるよう、デザイン支援の提供を行ってまいりました。また、デザインプラットフォーム事業においては、デザイナー人材紹介サービス「ReDesigner」やオンラインホワイトボードツール「Strap」を中心に、デザインパートナー事業で培ったノウハウやブランドを有効活用しながら、事業を推進しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は1,206,360千円(前年同期比0.6%減)、営業利益は77,276千円(前年同期比39.9%減)、経常利益は107,196千円(前年同期比18.6%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は60,960千円(前年同期比31.5%減)となりました。

報告セグメント別の業績の状況は以下のとおりであります。

① デザインパートナー事業

デザインパートナー事業は、顧客企業と当社のデザイナーが一体となりプロジェクト形式で包括的なデザインサービスを提供しております。最初に、サービスやブランド等の新たな価値を創出したい顧客企業とともにプロジェクトチームを立ち上げ、プロジェクトで解決する課題を抽出します。プロジェクトが開始されると、本質的な価値の発見が行われ、顧客企業の独自の強みや特徴が明らかにされます。このフェーズでは、プロジェクトチームが顧客企業と緊密に連携し、価値の源泉を特定し、その価値を洗練するための手段・プロセスの検討が行われます。次に、顧客企業の利用者（ユーザー）を特定し、ユーザーにとって利用しやすいものとなるよう、ユーザーの価値観に合致するデザインが開発されます。このフェーズでは、プロジェクトチームはデザインの詳細な要件を抽出し、ユーザーフィードバックを絶えず取り入れて調整を行います。こうして生み出されたデザインは顧客企業の戦略とブランディング活動に統合され、企業のビジョンと目標に紐づく事業活動に一貫性をもたらしめます。なお、アプリケーションのUI/UXデザイン開発においては、当社のエンジニアリングチームもプロジェクトに参画し、実際のデジタルプロダクトの構築を行うことがあります。これら一連のプロセスを通じて、顧客企業は既存のビジネスプロセスをデジタル化し、イノベーションを促進でき、効率性の向上や新しい価値の提供が可能となります。

近年、DXの進展により企業のデジタル領域における変革ニーズが高まる中、デザインの重要性は一層高まっております。このような環境下において、当事業では顧客企業ごとの課題やニーズに応じた柔軟な提案を行い、ソリューションの幅を拡張するとともに、AI活用を推進することで、高付加価値かつ高効率なアウトプットの提供を通じた業績拡大に取り組んでまいりました。当期においては、AI関連案件の獲得を優先的に進め、ノウハウやナレッジの蓄積を図るとともに、各種デザイン業務におけるAI活用を推進し、スピードとクオリティの両立に取り組んでおります。合わせて、社内のAIリテラシー向上を進め、「デザイン×AI」の取り組みを強化しております。

また、事業成長に向けた基盤強化として、デザイナーの採用を積極的に行い、提供リソースであるデザイナー人員の拡充を進め、幅広い業種・業態の顧客企業に対するデザイン支援が可能となっております。さらに、日本国内の正社員デザイン部門及び「Goodpatch Anywhere」との連携を強化し、営業リードの共有、プロジェクトの獲得、デザイナーリソースの相互活用を通じて、事業全体の成長を推進しております。

当第1四半期連結会計期間においては、当社ならびに株式会社スタジオディテイルズ及びGoodpatch Anywhereを含むプロジェクト提供を行った顧客社数(注3)は63.0社（前年同期は60.7社、前年同期比3.8%増）、月額平均顧客単価(注4)は5,860千円（前年同期は5,868千円、前年同期比0.1%減）となりました。月額平均顧客単価は低下したものの、営業人員体制の強化とマーケティング投資により有効商談数が増加し、結果、顧客社数は増加しました。

また、社内デザイン組織のデザイナー数は、当第1四半期連結会計期間末において157名（前年同期比増減なし）、「Goodpatch Anywhere」の所属デザイナー数は643名（前年同期比6.5%増、うち稼働デザイナー数は54名、前年同期比3.6%減）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるデザインパートナー事業の外部顧客への売上高は1,129,272千円（前年同期比1.3%増）、営業利益は105,577千円（前年同期比20.1%減）となりました。

(デザインパートナー事業のKPI推移)

	2025年8月期				2026年8月期	
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	
	実績	実績	実績	実績	実績	前年同期比
顧客社数 (社)	60.7	61.0	63.7	62.7	63.0	3.8%
月額平均顧客単価 (千円)	5,868	6,221	6,322	5,887	5,860	△0.1%

② デザインプラットフォーム事業

デザインプラットフォーム事業は、主要事業であるデザインパートナー事業の周辺領域において、人材及びソフトウェア分野を深耕し、事業全体の拡大をサポートしております。具体的には、デザイナー向けキャリア支援サービス「ReDesigner」やオンラインホワイトボードツール「Strap」で構成され、各サービス間のシナジー創出を図ることで、デザイン関連ビジネスの拡大に取り組んでおります。

当第1四半期連結会計期間においては、「ReDesigner」は、ダイレトリクルーティング機能を強化し、新たなキャリアを積みたいデザイナーとデザイナーを採用したい企業とのミスマッチを減らし、プラットフォームの拡大に取り組んでおります。ダイレトリクルーティング事業は順調に成長したものの、人材紹介事業の一時的な落ち込みにより売上高は減少しました。また、「Strap」においては、AIを十分に活用できていないユーザーの課題解決に向けて、誰もが簡単にAIを活用できる環境の提供を進めており、機能の開発推進を進めてまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるデザインプラットフォーム事業の外部顧客への売上高は77,088千円（前年同期比22.5%減）、営業損失は28,301千円（前年同期は3,509千円の営業損失）となりました。

- (注) 1. デジタルトランスフォーメーション (DX) とは、Digital Transformationの略語で、企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること、を意味します。
2. UI (User Interface/ユーザーインターフェース) とは、「ユーザーがPCやスマートフォン等のデバイスとやり取りをする際の入力や表示方法などの仕組み」を意味します。また、UX (User Experience/ユーザーエクスペリエンス) は「サービスなどによって得られるユーザー体験」のことを意味します。
3. 顧客社数とは、デザインパートナー事業において、当社グループとデザインプロジェクトを進めるために契約した顧客企業の社数を指しており、1か月にデザイン支援を提供した顧客社数の当該期間の平均値を示しています。
4. 月額平均顧客単価とは、四半期ごとの売上高を顧客社数で除した数値の平均値を示しています。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べて350,207千円減少し、3,045,491千円となりました。主な要因は、前払費用の増加52,328千円があった一方で、現金及び預金の減少409,050千円があったこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ4,046千円減少し、1,845,682千円となりました。主な要因は、投資有価証券の増加49,660千円があった一方で、繰延税金資産の減少51,069千円があったこと等によるものであります。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて354,254千円減少し、4,891,173千円となりました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べて339,159千円減少し、617,297千円となりました。主な要因は、預り金の増加28,520千円があった一方で、未払法人税等の減少206,896千円、賞与引当金の減少94,048千円があったこと等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ20,880千円減少し、122,913千円となりました。主な要因は、借入金の返済による長期借入金の減少25,824千円等によるものであります。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて360,039千円減少し、740,210千円となりました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比べて5,785千円増加し、4,150,963千円となりました。主な要因は、剰余金の配当による利益剰余金の減少87,337千円があった一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加60,960千円、その他有価証券評価差額金の増加30,159千円等があったこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年8月期通期の業績予想については、2025年10月15日の「2025年8月期通期決算短信」で公表いたしました業績予想から変更はございません。

今後、業績予想の数字に影響を及ぼす事態が生じた場合には、速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,733,133	2,324,083
売掛金及び契約資産	584,262	592,246
仕掛品	9,565	10,178
前払費用	55,483	107,811
未収還付法人税等	6	6
その他	13,247	11,164
流動資産合計	3,395,698	3,045,491
固定資産		
有形固定資産		
建物	75,179	75,179
減価償却累計額	△42,101	△43,371
建物（純額）	33,078	31,807
工具、器具及び備品	59,906	60,837
減価償却累計額	△52,652	△53,393
工具、器具及び備品（純額）	7,254	7,444
リース資産	9,680	9,680
減価償却累計額	△1,152	△1,498
リース資産（純額）	8,527	8,181
有形固定資産合計	48,860	47,433
無形固定資産		
商標権	1,247	1,186
のれん	349,070	349,657
顧客関連資産	45,222	43,166
無形固定資産合計	395,540	394,011
投資その他の資産		
投資有価証券	1,310,160	1,359,820
敷金及び保証金	23,325	23,737
繰延税金資産	51,563	493
その他	20,279	20,187
投資その他の資産合計	1,405,328	1,404,238
固定資産合計	1,849,729	1,845,682
資産合計	5,245,428	4,891,173

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	99,609	109,717
1年内返済予定の長期借入金	130,423	117,301
未払金	142,063	107,309
未払費用	39,493	31,499
未払法人税等	219,888	12,991
未払消費税等	112,933	77,062
契約負債	61,599	61,164
リース債務	1,367	1,383
賞与引当金	100,347	6,298
預り金	48,730	77,251
その他	-	15,317
流動負債合計	956,456	617,297
固定負債		
長期借入金	108,426	82,602
リース債務	8,188	7,836
資産除去債務	11,608	11,612
繰延税金負債	15,570	20,861
固定負債合計	143,793	122,913
負債合計	1,100,250	740,210
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,774,543	1,774,543
資本剰余金	1,761,139	1,761,139
利益剰余金	821,244	794,876
自己株式	△250,168	△250,177
株主資本合計	4,106,759	4,080,382
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,192	45,351
為替換算調整勘定	△128	△178
その他の包括利益累計額合計	15,064	45,173
新株予約権	23,353	25,407
純資産合計	4,145,177	4,150,963
負債純資産合計	5,245,428	4,891,173

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2025年11月30日)
売上高	1,214,187	1,206,360
売上原価	531,566	534,051
売上総利益	682,620	672,309
販売費及び一般管理費	553,960	595,032
営業利益	128,660	77,276
営業外収益		
受取利息	76	103
受取配当金	-	33,167
持分法による投資利益	6,406	5,965
為替差益	53	281
その他	1,079	908
営業外収益合計	7,616	40,426
営業外費用		
支払利息	573	538
株式交付費	-	35
投資事業組合運用損	3,204	9,932
支払手数料	876	-
その他	0	-
営業外費用合計	4,654	10,506
経常利益	131,622	107,196
特別利益		
投資有価証券売却益	-	5,002
新株予約権戻入益	2,553	273
特別利益合計	2,553	5,275
税金等調整前四半期純利益	134,175	112,472
法人税、住民税及び事業税	47,781	9,032
法人税等調整額	△2,639	42,480
法人税等合計	45,142	51,512
四半期純利益	89,033	60,960
親会社株主に帰属する四半期純利益	89,033	60,960

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2025年11月30日)
四半期純利益	89,033	60,960
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	30,159
為替換算調整勘定	△6	△50
その他の包括利益合計	△6	30,108
四半期包括利益	89,026	91,069
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	89,026	91,069
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第1四半期連結累計期間(自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)

株主資本の著しい変動

当社は、2024年10月15日開催の取締役会決議に基づき、当第1四半期連結累計期間において自己株式226,300株の取得を行っております。この結果、当第1四半期連結累計期間において、自己株式が100,097千円増加し、当第1四半期連結会計期間末において自己株式が200,198千円となっております。

当第1四半期連結累計期間(自 2025年9月1日 至 2025年11月30日)

株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期 連結損益 計算書 計上額
	デザイン パートナー事業	デザイン プラット フォーム 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,114,732	99,455	1,214,187	—	1,214,187
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,114,732	99,455	1,214,187	—	1,214,187
セグメント利益又は損失 (△)	132,169	△3,509	128,660	—	128,660

(注)セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期連結累計期間(自 2025年9月1日 至 2025年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期 連結損益 計算書 計上額
	デザイン パートナー事業	デザイン プラット フォーム 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,129,272	77,088	1,206,360	—	1,206,360
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,129,272	77,088	1,206,360	—	1,206,360
セグメント利益又は損失 (△)	105,577	△28,301	77,276	—	77,276

(注)セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2025年11月30日)
減価償却費	4,516千円	4,597千円
のれんの償却額	15,866	17,362

(重要な後発事象の注記)

該当事項はありません。